

看護師たかこの

すこやか生活

2019年12月

早いもので師走にはいりました。今年は暖かい日が続いた後で、急に冬が到来してきました。通勤で通る神社の銀杏が、今年はいつもより黄色く感じられ、青空に映えて美しいです。たくさんの行事があった2学期は、いかがでしたか？行事とともに、ひとまわりも、二回りも成長した我が子を見ることができましたか。子どもを褒めてくださいね。



12月4日の朝刊一面に日本の15歳の『読解力』続落日本15位」と報道されています。OECD（経済協力開発機構）が実施しているPISA（Programme for International Student Assessment 国際学習到達度調査）の結果です。以前、「AIは人間に勝てるか？」と問われた時、AIの弱点は「読解力」と言われていました。つまり「読解力」があれば、AIに仕事は奪われないということだったと思います。PISAの「読解力」の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」ということで、その能力は「○テキストを読み、正しく理解できる力 ○テキストの意味を熟考できる力 ○テキストに基づいて自分の意見を論じられる力」だそうです。ある記事では、「3割の日本人の読解力は小学校3～4年レベルに達していない」「中学校の教科書程度の文章でも、正確に理解できる人は予想以上に少ない」とも、報じています。読解力のない人は意外と多いのだそうですが、その人たちは、もしかしたら将来失業するかもしれないと、警告している記事もあります。それではどのようにしたら読解力が身につくのか。「AI vs. 教科書を読めない子どもたち」「AIに負けない子どもを育てる」の著者新井紀子氏によると、幼児期の育て方として次の7つをあげています。「①身近な大人同士の長い会話を聞く機会を増やすこと。特に多様な年代の大人同士の会話を聞く機会があるとよい。②身近な大人が絵本を開いて、繰り返し読み聞かせをしてあげてほしい。③信頼できる人に自分は守られているという実感を持つこと。④社会に関心を持つようになったら、ごっこ遊びができる環境を作ったり、広告や駅名を読んでやったり、貨幣で何かを買ったり、簡単な調理を一緒にする機会を増やす。⑤日々の生活の中で、子どもが身近で小さな自然に接する時間を取る。⑥子どもが自分の関心に集中できる時間を十分に確保する。⑦同世代の子どもたちと接し、少し年上の子どもの真似をしたり、憧れたりする機会を確保する。」つまり、「親子の対話、絵本の読み聞かせ、遊び」を通して、いろいろな体験をする機会をもつということでしょうか？さらに体験したことをアウトプット、子どもがその体験をどのように感じ何がわかったのかを口に出して表現することが重要だと私は思います。

今後世界がどのように変化するかわかりませんが、人間が人間らしく生き、豊かな暮らしを送るためには、自分だけよければよいのではなく、社会の中で、自ら考え、自ら行動し、役割を果たしていくことが、現在と同様に求められるでしょう。

健やかな新年をお迎えください。

たかこ